

- 1) バリバリのブランド物の金の腕時計をしているか否か？
- 2) 社長室にヒョウなどの動物の絨毯やトラ等の猛獣の剥製があるか否か？

3) 政治家や有名人と一緒に写っている写真が飾ってあるか否か？

4) やたら有名人との交際がある事を誇示するか否か？

5) 社内や社長室に掛けてある絵のセンスとか趣味はどうであるか？

等の項目もその条件の参考にしているとの事ですが今日はその5番目の絵の事について話させていただきます。

皆様もご承知の通り当社の館内には結構多くの絵画がございます。商売柄、館内各所に額とか置物、部屋には掛け軸とか、その掛ける釘の数は色紙や短冊を入れると50カ所以上あります。

特大の100～200号位になりますと四季に関係なく年中掛けとなるところは5カ所位はありますが、他は四季折々とはできないものの最低年2回位は、小品の6～20号位の作品であればやはり四季折々に変えたいと思いますし1Fの畳の客室には普通宴会、祝い事、仏事等には変えなければなりません。そうすると結構の作品を用意しておかねばなりません。しかも以前よりは段々と目も肥えて名前の通った先生の作品が欲しくもなって来ます。

昭和61年10月にオープンしました時には、恥ずかしながら地元の先生の作品が数点と先祖からの作品がちょっぴりあるのみでご来館されたお客様の中でアルコールが入っての帰りには“ここんちはろくな絵しかない、”と言われた事もありまして、少しづつでも集める努力をしなければと儉約に儉約を重ね一枚一枚と求めて来ました。最初の頃は何も判らず、ただ型になれば良い位の調子で作品の価値と値段の一致しない買い方や不勉強の為収集のルールに反した失敗等もたくさんありました。そのお陰で作品はできるだけ多く良い作品を見る事に心がけてその後の収集にしても現存の作家や物故作家の名前やその作風とか価値とか、少々おぼろながら判りかけて来た頃、名前の通った全国区の作家になればなる程偽物があることを知り、それに“まんまと、”はまってしまったのです。

それも一点ではなく三点もです。偽物と判ったのはその作品（内身の絵）と着ている額のバランスからでした。もっともある先生の武者絵は岩絵の具、顔料の使い方と全体の勢いと品格が劣っているところから偽物と後から判りました。他の二点は着ているベベがみずばらしい物でした。そんな事から疑惑、不信、そして再鑑定と東京美術倶楽部をお願いしてバケの皮が剥げました。鑑定書はカラーコピー、共シールは偽物等々、大変な失敗をしました。しかしその失敗のお陰でその後求める時は額の場合は絵の裏に共シールがあるか否か？なければ再鑑定条件で求めるか。物故者の物で特別高価の作品は再鑑定をつけるか。掛け軸であれば共箱であるか、なければ鑑定人のシールや裏書きがあるかどうか、なければそれをつけてもらう条件で求めるか等々と思いますが、結局は信頼できる画商との付き合いになる訳ですが、相手も人間です。間違いない訳ありません。必ず事前にもしもの事があったらの話もしておく事が必要かと思えます。

今後は高価な作品は求められませんが、四季を感じさせてくれる作品でお客様により良い波長を与えてくれる作品でおいしい料理とサービスの向上と館内外の清掃に力を入れてご来館下さるお客様に恩返しできればと思う昨今です。

又、絵画とは話は変わりますが現在アニメで ファイデングニモ が大評判で熱帯海水魚のブーム